

論壇

両支持層の「政治理念」

米国で大統領選挙が行われた。この原稿の執筆時点ではその結果は分からない。マスコミの報道を見ていると、郵便投票の扱いや開票の遅れなどで、結果が決まるまでに少し時間がかかりそうな様子だが、さてどうだろうか。

トランプ大統領が再選されれば現在の政策が継続されることになるが、バイデン氏が大統領になれば多くの政策が大きく変わることになるだろう。ただ、どちらが大統領になっても全く変わらないことがある。これが政治的にも社会

学習院大教授(国際経済学) 伊藤 元重

的にも大問題である。それは米国の社会的分断である。

選挙報道を見ていると、何かなんでもトランプ大統領を支持するという人が4割近くおり、何かなんでもトランプ大統領を支持しないという人が同じくらいいる。これらの固定票とも言える人たちが米国の有権者の大きな割合を占めているので、残りの少ない浮動票が雌雄を決することになる。

米社会の「分断」

米政治の分断は近年さらに激しくなっているようだ。特にトランプ大統領になってからはその傾向が著しい。民主党支持層と共和

党支持層の政治理念は大きく乖離している。民主党支持層は気候変動への対応が必要と考え、医療の国民皆保険を支持する。銃規制に前向きであり、中絶の権利も認めるべきだと考えている人が多い。共和党支持者、とりわけトランプ大統領の支持者の中には、地球気候変動に関するパリ協定からの離脱を支持し、銃規制や中絶でも民

張の書き込みだけを読み、リツイートする傾向が強い。要するにそれぞれのサイドで自分たちと同じ考え方を持っている人の間で盛り上がり、別のサイドの人たちの主張には耳を傾けようとしていない。

国際社会の舵取り困難

SNSはより多くの人が多様な意見をやりとりする場となることが期待されていたが、現実には社会の分断をおおる結果になっている。社会が分断することが好ましくないことは言うまでもない。誰が大統領になっても国内で意見の分断があれば、政策で大きく前に進むことは難しい。内政での調整に追われ、米国が国際社会でリーダーシップを取ることも難しくなるだろう。トランプ大統領の時代にすでにそうした流れが加速化したようだが、どちらが大統領になってもこの先こうした流れが続くだろう。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。